

令和5年度庄原市教頭・事務長研修会

令和5年6月20日（火）14:00～16:35 庄原市ふれあいセンター コパリホール

庄原市教育行政施策の方針を踏まえ、今日的教育課題の解決に向けた方策や組織的な学校運営のための教頭・事務長の果たすべき役割について理解することを通して、自校の学校運営のより一層の充実と改善に資することを目的に研修会を行いました。

【講話】「学校運営協議会の意義と取組」 庄原市教育委員会 指導係長 小谷綾子

学校運営協議会の充実のポイントは「共有」である。学校・家庭・地域で情報、課題、目標、ビジョンの共有をすることが大切である。そのためには、熟議をすることが重要となる。



【実践発表】「市内各小中学校の取組について」 庄原小学校 事務長 五反田 治子 高野小学校 教頭 吉岡 欣哉 西城中学校 教頭 福原 栄治

各校の特色ある取組が発表された。

キャリア教育の視点を取り入れた子供の学びの場づくり
庄原小

学校・地域でビジョンの明確化・共有化
高野小



地域とのつながりで生徒の自己実現をめざす
西城中

【交流・協議】 「各校の学校運営協議会の状況について」

各校の取組状況を交流し、参考となる取組や実践における悩みや課題が出された。



【講評】 広島県教育委員会義務教育指導課 主任指導主事 半田 光紀 広島県教育委員会生涯学習課 社会教育監 宮田 幸治

作成したカリキュラムの改善・更新を繰り返し行っていくことで、地域とともに学びをつくっていく。そのことで、子供も成長し、教師も成長することができる。先進事例としては、学校運営協議会に子供たちを参画させていく取組もある。



【参加者の感想等】

- ・ ビジョンを明確にすることで、異動等により人が変わっても取組は継続できると感じた。コミュニティスクールのビジョンをいかに教職員や子供たちと共有していくかが今後の課題である。
- ・ 地域連携を単発で終わらせず、6年間のつながりを意識した取組となるよう、カリキュラムを見直していく。
- ・ 「どんな力を子供たちに付けさせるか」を学校・家庭・地域が共有していくことが、やはり大事だと再確認した。